

第78回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成20年4~6月期実績・平成20年7~9月期見通し)

1. 調査時点 平成20年6月2日~6月6日

2. 調査対象企業数 182社中回答 182社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率(%)
製造業	従業員 300人以下	41	41	100.0
建設業	"	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	55	55	100.0
サービス業	"	32	32	100.0
合計		182	182	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域(新冠町~広尾町)内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加(上昇)」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少(下降)」したと回答した企業の全体に占める構成比との差(判断指数・DI値)を中心に分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫総合研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 経営統轄本部調査課(.0146 - 22 - 4113、内線162)

〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 182 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

概 況

今期(平成20年4~6月期)の業況判断DI値は 52.8 と、前期(平成20年1~3月期)の 63.0 から 10.2 ポイント改善したものの、過去10年間の4~6月期実績の中で最も低い水準となった。業種別にみると、前期比5業種のうち製造業、建設業、小売業、サービス業の4業種で改善しているが、横ばいの卸売業をはじめ全業種が低い水準にとどまり、製造業、建設業では過去10年間の4~6月期実績の中で最も低い水準となった。

前年同期比の売上額、収益の判断DI値は、売上額 34.2(前期 44.2)、収益 41.3(前期 53.0)と、それぞれ前期比マイナス幅が縮小し 10.0、11.7 ポイント上昇した。

来期(平成20年7~9月期)の予想業況判断DI値は 41.2 と、今期(52.8)実績比 11.6 ポイントの改善を見通すものの、過去10年間の7~9月期実績の中で3番目に低い水準となっている。

【業種別天気図】

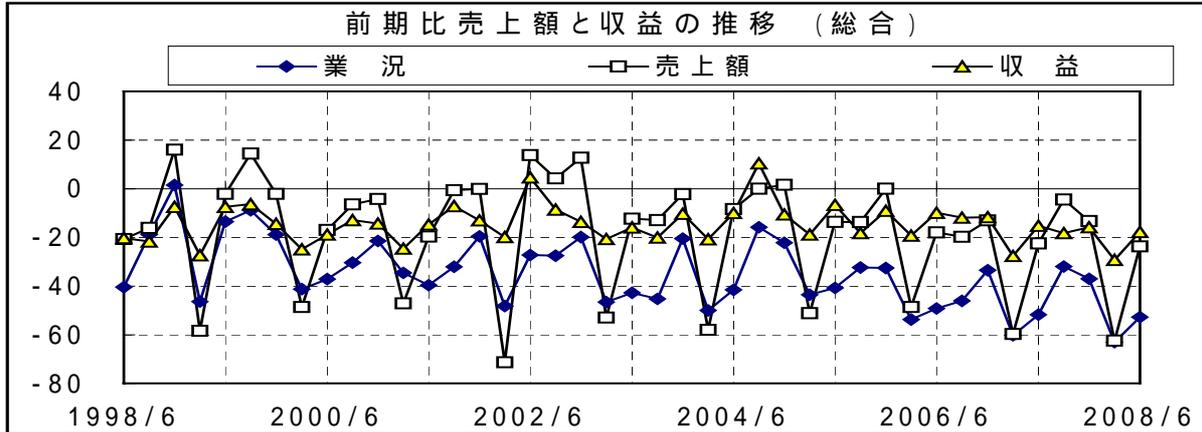
業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国		
		19年 10~12月	20年 1~3月	20年 4~6月	20年7~9月 見通し	当 期	当 期		
総 合									
製 造 業									
建 設 業									
卸 売 業									
小 売 業									
サ ー ビ ス 業									
好調									低調
この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。									

景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-37.0	-63.0	-52.8	-41.2
売上額	-13.3	-62.4	-23.7	-9.9
収 益	-15.8	-29.2	-17.7	-20.4

全業種総合の今期の業況判断DI値は 52.8 と、前期比10.2ポイント改善したものの、過去10年間の4~6月期実績の中で最も低い水準となった。地区別にみると、前期比静内、三石、様似、広尾地区で改善し、浦河、えりも地区では悪化している。

売上額判断DI値は 23.7 と、前期比マイナス幅が大きく縮小し38.7ポイント上昇、また、収益判断DI値も 17.7 と、11.5ポイント上昇した。

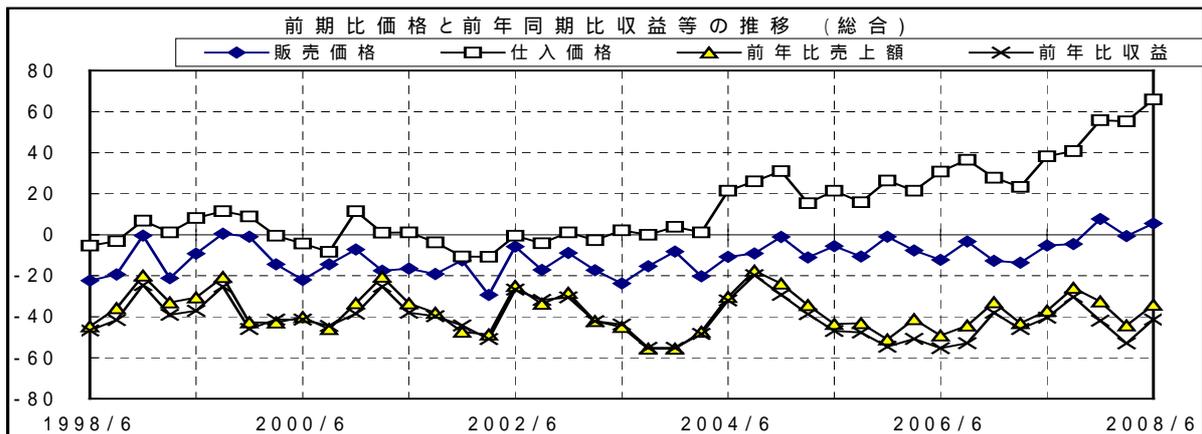


価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	7.7	-0.6	5.5	5.5
仕入価格	55.9	55.3	66.0	48.4

販売価格判断DI値(5.5)は、前期比マイナスからプラスに転じ6.1ポイント上昇、また、仕入価格判断DI値(66.0)は、前期比プラス幅が10.7ポイント拡大し、それぞれ価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比販売価格判断DI値は建設業が低下しそれ以外業種で

上昇、仕入価格判断DI値は全業種で上昇している。



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-5.4	-23.2	-18.1	-3.9
人手状況	-2.3	18.7	13.2	0.0

残業時間判断DI値は 18.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比5.1ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は13.2 と、前期比プラス幅が5.5ポイント縮小、人手過剰感が弱まっている。

設備投資の動き

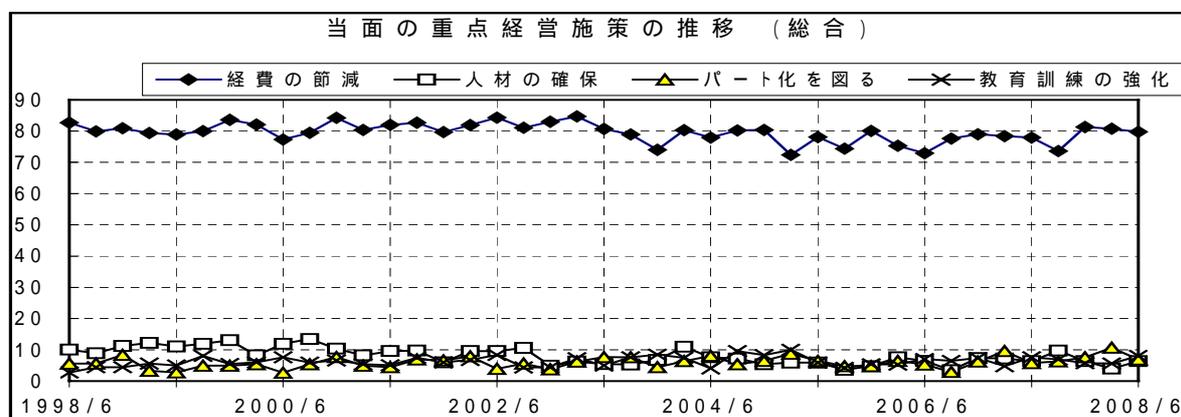
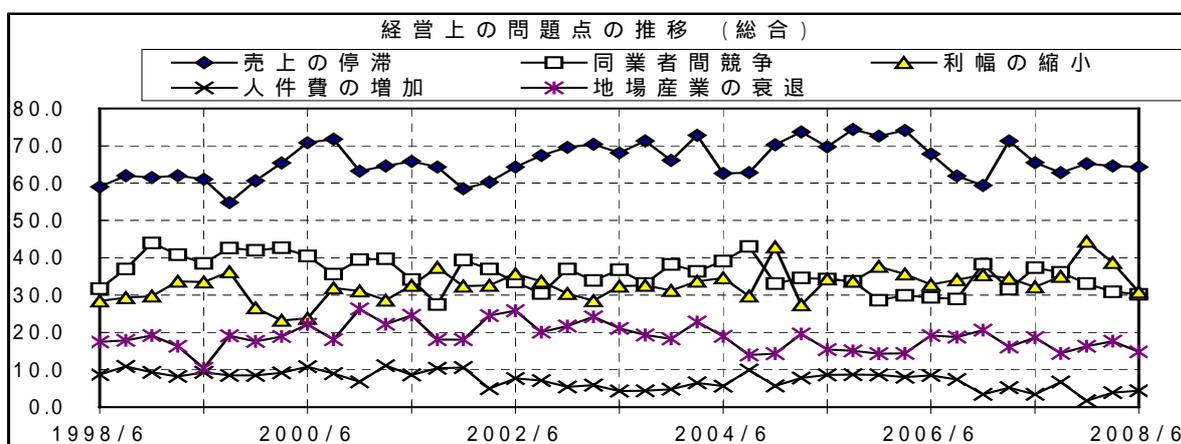
設備投資の充足感を示すDI値は 1.7 と、前期(2.2)からマイナス幅が0.5ポイント縮小し僅かながら不足感が弱まる一方、適正と回答した企業は77.5%で、前期(80.0%)から2.5ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は14.8%と、前期(9.4%)比5.4ポイント上昇し件数で前期の17社に対し27社の実施となった。一方、来期予定では当期比2社減の25社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が64.3%で最も多く、次いで「利幅の縮小」30.8%、「同業者間の競争」30.2%、「地場産業の衰退」14.8%の順に続き、前期との比較ではさほど変動がなく「利幅の縮小」と回答する企業割合の減少(7.9)が最も大きな振れとなっている。業種別にみると、製造業が「原材料高」、建設業、卸売業、小売業、サービス業が「売上の停滞」をトップに挙げ、「売上の停滞」は類似えりも地区で70%を超える割合となっている。

重点経営施策では、「経費の節減」が79.8%で突出し全業種でトップに挙げている。地区別にみると、「経費の節減」が全地区で70.0%~100.0%の割合を占め、静内地区では100.0%となっている。



来期の見通し

来期(20年7~9月期)の予想業況判断DI値は 41.2 と、今期(52.8)実績比11.6ポイントの改善を見通すものの、過去10年間の7~9月期実績の中で3番目に低い水準となっている。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額が 9.9(今期 23.7)で今期実績比13.8ポイント上昇を見通し、一方、収益は 20.4(今期 17.7)で今期実績比2.7ポイント低下を見通している。

予想販売価格判断DI値は 5.5 と、今期(5.5)実績比横ばい見通し。一方、予想仕入価格判断DI値は 48.4 と、今期(66.0)実績比プラス幅が17.6ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

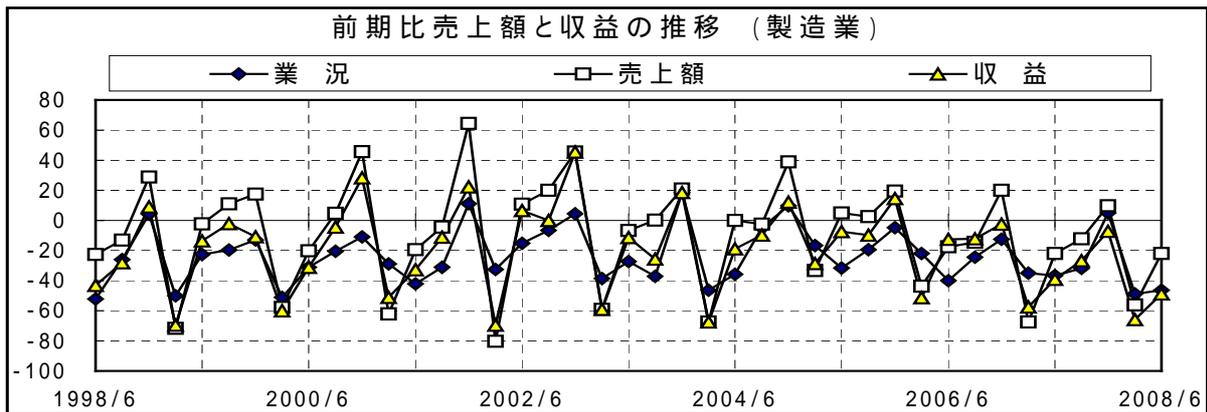
製造業 41 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	4.9	-48.8	-46.3	-7.3
売上額	9.8	-56.1	-22.0	-9.7
収 益	-7.3	-65.9	-48.8	-24.3

今期の業況判断DI値は 46.3 と、前期比 2.5 ポイント改善したものの、過去 10 年間の 4~6 月期実績の中で最も低い水準となった。地区別にみると、前期比浦河、広尾地区で改善し、様似地区が横ばい、静内、三石、えりも地区では悪化している。

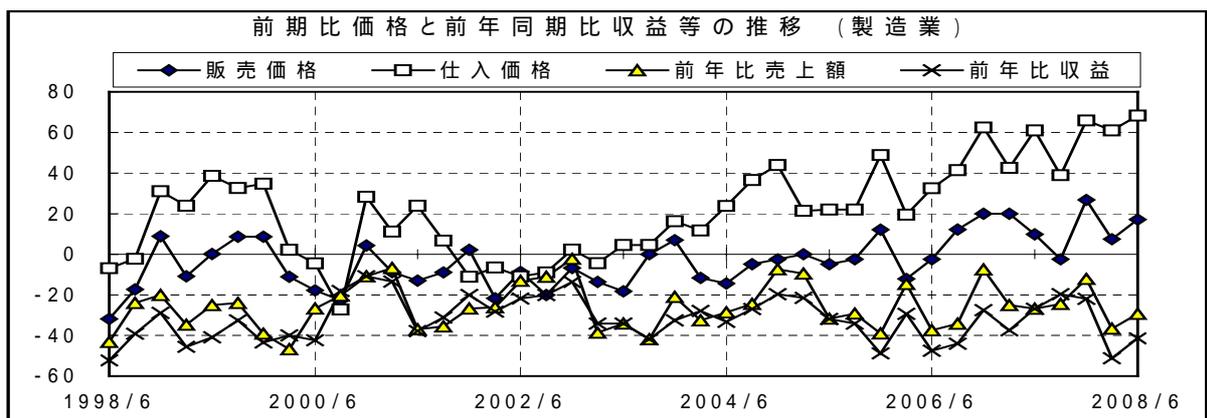
売上額判断DI値は 22.0 と、前期比マイナス幅が大きく縮小し 34.1 ポイント上昇、また、収益判断DI値も 48.8 と、17.1 ポイント上昇した。



価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	26.8	7.4	17.1	7.4
仕入価格	65.9	61.0	68.3	43.9

販売価格判断DI値 (17.1)、仕入価格判断DI値 (68.3) は、それぞれ前期比プラス幅が 9.7、7.3 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比食品は販売価格判断DI値が横ばいとなり仕入価格判断DI値で上昇、木材は販売価格判断DI値が上昇し仕入価格判断DI値で横ばいとなっている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	14.6	-39.1	-17.1	9.7
人手状況	-19.5	19.5	17.1	4.9

残業時間判断DI値は 17.1 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 22.0 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 17.1 と、前期比プラス幅が 2.4 ポイント縮小、人手過剰感がやや弱まっている。

設備投資の動き

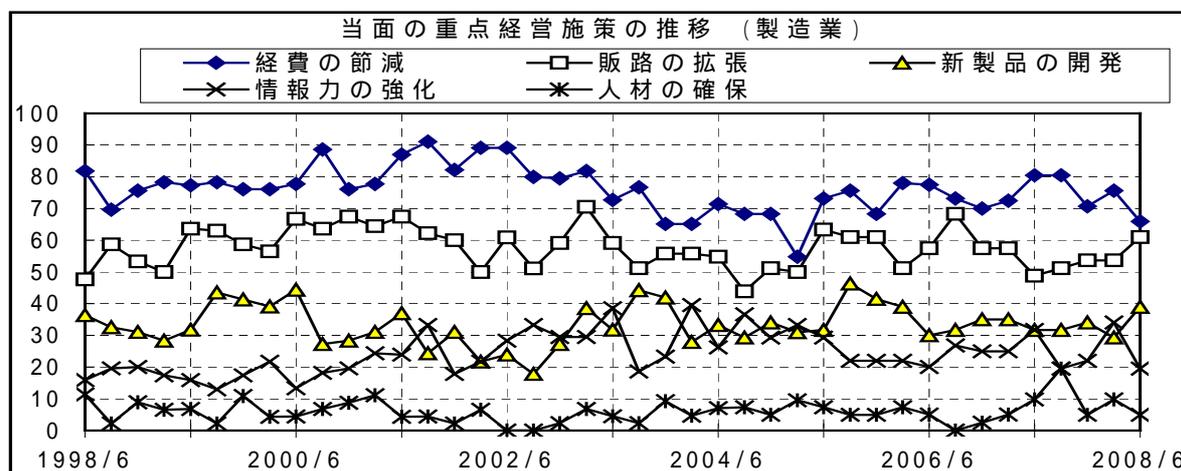
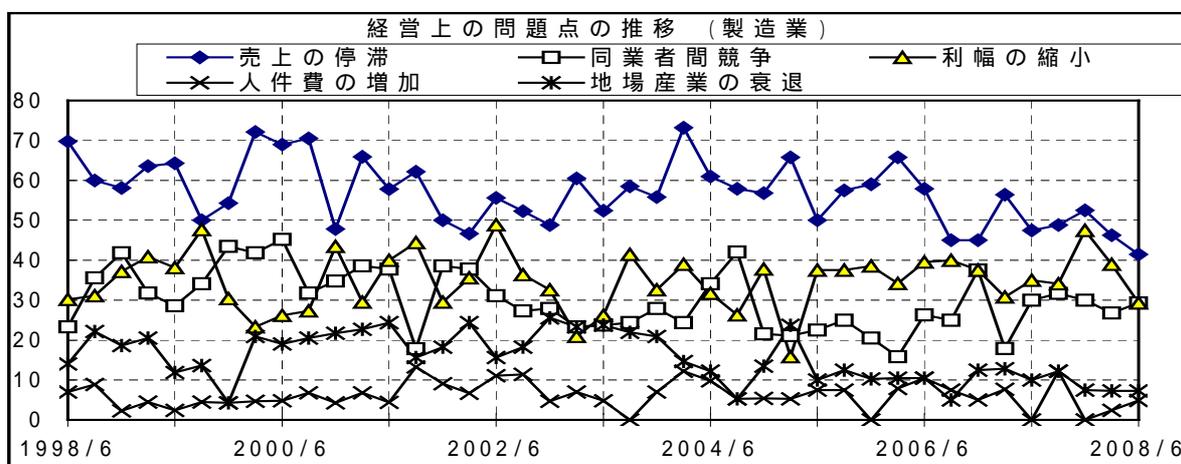
設備投資の充足感を示すDI値は 9.7 と、前期（ 9.8）からマイナス幅が 0.1 ポイント縮小し不足感が極僅か弱まる一方、適正と回答した企業は90.3%で、前期（85.4%）から 4.9 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 14.6%と、前期（12.2%）比 2.4 ポイント上昇し件数で前期の 5 社に対し 6 社の実施となった。一方、来期予定では当期比 1 社減の 5 社となっている。

経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「原材料高」をトップに挙げ 63.4%、次いで「売上の停滞」41.5%、「利幅の縮小」、「同業者間との競争」29.3%の順に続き、前期との比較では「仕入先からの値上り要請」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、食品が「原材料高」、木材が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 65.9%、次いで「販路を広げる」61.0%、「新製品の開発」39.0%、「情報力の強化」19.5%の順となっている。業種別にみると、食品が「経費の節減」、木材が「販路を広げる」をトップに挙げている。



来期の見通し

来期（20年7～9月期）の予想業況判断DI値は 7.3 と、今期（ 46.3）実績比 39.0 ポイントの大幅な改善を見込んでいる。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額 9.7（今期 22.0）、収益 24.3（今期 48.8）と、それぞれ今期実績比 12.3、24.5 ポイント上昇を見通している。

予想販売、予想仕入価格判断DI値は、販売価格 7.4（今期 17.1）、仕入価格 43.9（今期 68.3）と、それぞれ今期実績比プラス幅が 9.7、24.4 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。